

---

# 日本図書館文化史研究会

## ニューズレター

第 94 号 2005 年 10 月 23 日

日本図書館文化史研究会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalih/index.html>

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

明治大学司書・司書教諭課程

郵便振替口座 00170-5-164973

(事務局)

小黑浩司

ファックス

電子メール [oguro@sakushin-u.ac.jp](mailto:oguro@sakushin-u.ac.jp)

---

### ■■ 目 次 ■■

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| 日本図書館文化史研究会 2005 年度研究集会・総会、成功裏に終了 | 2  |
| 『予稿集』頒布のお知らせ                      |    |
| 研究会創立 25 周年記念「図書館人物伝（仮称）」について     | 3  |
| 『図書館文化史研究』第 22 号が刊行されました          |    |
| 日本図書館文化史研究会 2005 年度第 2 回研究例会のご案内  | 5  |
| 研究会のウェブサイト（ホームページ）開設について          | 7  |
| 『ニューズレター』バックナンバーのウェブ掲載について        |    |
| 2005 年度研究集会シンポジウム報告要旨             | 8  |
| 2005 年度研究集会個人発表要旨                 | 9  |
| 運営委員会通信                           | 11 |
| 事務局だより                            | 12 |
| 会費納入のお願い                          |    |
| 会員動向                              |    |

日本図書館文化史研究会

2005 年度研究集会・総会、成功裏に終了

2005 年度日本図書館文化史研究会研究集会・総会は、9 月 17・18 日の両日、日本図書館協会会館を会場に開催されました。今回の研究集会・総会の参加者数は、51 名でした（うち非会員 14 名）。参加者数は昨年度を下回ったものの、北は北海道から南は四国までの全国の会員が参集して、盛況でした。

第 1 日目は、「図書館用品 その保存と活用」をテーマとしたシンポジウムを、日本図書館協会と共同開催しました。中林隆明氏の司会・進行のもと、竹内愼氏、木原祐輔氏、小川徹氏の順に報告がなされ、その後フロアの参加者も交えた討議が行われました。各報告者の報告要旨は 8 ページをご覧ください。このシンポジウムの模様につきましては、『図書館文化史研究』第 23 号に掲載の予定です。

シンポジウム終了後、協会会館近くの「シェルブール」に会場を移して、懇親会が実施されました。懇親会の参加者は 29 名でした。

第 2 日は個人発表 4 件が行われました。午前の司会を泉山靖人氏、午後を三浦太郎氏が担当しました。各発表の要旨は 9～10 ページに掲載しました。

個人発表後、会員総会を開催しました。会員総会では、寺田光孝氏を議長に選出し、事務局より 2004 年度の活動・決算報告と、2005 年度予算（案）が提案され、それぞれ承認されました。次いで創立 25 周年記念事業『図書館人物伝（仮称）』や、このたび開設された研究会のウェブサイトなどについて協議を行いました。なお、25 周年記念事業については、3～4 ページ、研究会のウェブサイトについては 7 ページの記事を、それぞれご参照ください。

終わりにになりましたが、このたびの研究集会・総会の開催に際しましては、松岡要事務局長をはじめ日本図書館協会の皆様にお世話になりました。心よりお礼申し上げます。（事務局 小黒記）

『予稿集』頒布のお知らせ

今回の研究集会・総会の『予稿集』を、実費（550 円）にて頒布します（A4 版・本文 30 ページ）。

郵送ご希望の場合、送料（390 円）を加えた、合計 940 円をそえて（郵券可）、送り先の郵便番号・住所・氏名を明記して、事務局まで申込んでください。

日本図書館文化史研究会創立 25 周年記念

『図書館人物伝（仮称）』について

本研究会は、きたる 2007 年に創立 25 周年を迎えます。昨年度の会員総会でこれを記念した諸事業を行うことが決定しました。

このうち『図書館文化史研究』第 24 号を「創立 25 周年記念号」として増ページ発行する件については、「図書館人物伝（仮）」を特集テーマとすることとし、原稿の募集を行いました。その結果、以下のように多くの方からの応募をいただきました。

たくさんのご応募が寄せられたことから、運営委員会では、『図書館人物伝（仮称）』を単行本として刊行する方針を固めました。そしてこのことをこのたびの会員総会に諮り、ご了承をいただきました。

なお、『図書館人物伝（仮称）』、『図書館文化史研究』第 24 号ともに、日外アソシエーツより、2007 年 9 月頃発行の予定です。

引き続き『図書館人物伝（仮称）』ほか、記念事業の内容等につきまして、会員の皆様からのご意見・ご要望などをお待ちしています。ご意見等を事務局までお寄せください。

『図書館人物伝（仮称）』

2005.09.15 現在

1. 伊香左和子（静岡文化芸術大学） セーチェーニ、フェレンツ
2. 石井 敦 田所糧助
3. 石川 敬史（工学院大学図書館） 叶沢清介
4. 石山 洋 森 清
5. 井谷 泰彦（桐朋中学高等学校図書館） 島尾敏雄・伊波普猷・真境名安興
6. 井上 靖代（獨協大学）（Mabel Williams）
7. 大沼 宜規（国立国会図書館） 岡 千仞？
8. 小川 徹 佐野友三郎
9. 奥泉 和久（横浜女子短期大学） 森 博
10. 小黒 浩司（作新学院大学） 大西伍一
11. 垣口弥生子（大阪府立中之島図書館） 今井貫一
12. 河井 弘志 ウォルター・ホフマン(Walter Hofmann)
13. 坂内 夏子（早稲田大学） 川本宇之介・中田邦造・乗杉嘉寿

14. 阪田 蓉子 (明治大学) 本間一夫
15. 志保田 務 (桃山学院大学) 間宮不二雄
16. 鈴木 宏宗 (国立国会図書館) 松本喜一
17. 高梨 章 (関東学院大学図書館) 湯浅吉郎
18. 中林 隆明 (東洋英和女学院大学) ?
19. 中山 愛理 (筑波大学大学院生) メアリー・レミスト・ティッコム
20. 馬場 俊明 (甲南大学) 中井正一
21. 深井 耀子 (椛山女学園大学) リリアン・スミス (トロント)
22. 松崎 博子 (筑波大学大学院生) シェラ
23. 三浦 太郎 (東京大学) キーニー
24. 宮原 志津子 (東京大学大学院生) ヘディッグ・アヌアール(Hedwig Anuar)
25. 山口源治郎 (東京学芸大学) 今澤慈海
26. 山本 順一 (筑波大学) ジョン・コットン・ダイナ(John Cotton Dana)

執筆予定者の五十音順・敬称略

### 『図書館文化史研究』第22号が刊行されました

機関誌『図書館文化史研究』第22号が、9月に刊行されました(本文:91ページ、本体価格:1,900円)。

会員の皆さまには、9月初旬に発送済みです。未着の方は恐れ入りますが、事務局までご連絡ください。

### 『図書館文化史研究』第22号 目次

- 特別講演  
河井弘志 図書館史と図書館思想史と図書館学史
- シンポジウム 戦後公共図書館実践の再検証  
塩見 昇 戦後図書館実践の展開についての史的考察  
伊藤昭治 レファレンス・サービスの模索と実践  
石塚栄二 戦後公共図書館発展の背景
- 論文  
野口武悟 戦前期日本における障害者サービスの展開 —障害者自身の図書館サービスをめぐる運動と実践を中心に—

日本図書館文化史研究会

2005 年度第 2 回研究例会のご案内

2004 年度第 2 回の研究例会を、下記のように開催します。久しぶりの関西地区での開催です。是非ともご参加ください。

記

- 日 時 2005 年 11 月 26 日 (土) 13 時 30 分～15 時 30 分
- 場 所 桃山学院大学昭和町学舎エクステンション・センター分室  
会場への交通、道順は 6 ページの地図をご参照ください。
- 参加費 300 円
- 申込方法 参加ご希望の方は、下記まで、郵便、ファックス、または電子メールでお申込ください。
- 申込先 〒321-3295  
宇都宮市竹下町 908 作新学院大学司書・司書教諭課程  
小黒 浩司 電子メール：[oguro@sakushin-u.ac.jp](mailto:oguro@sakushin-u.ac.jp)  
ファックス：
- 申込締切 2005 年 11 月 20 日 (必着)
- 内 容

【発表 1】

- 発表者

志保田 務 (桃山学院大学)

- 発表題名

二つの主記入論争：青年図書館員連盟と後継者を焦点に

- 発表要旨

日本図書館協会 (JLA) の「和漢図書目録法」(1932) に対して、著者主記入方式を主張する青年図書館員連盟員は強い批判を投じた。JLA はこの新興勢力の主張を退けることができなかった。これが第一期の主記入論争である。同連盟は『日本目録規則 1942 年版』を策定、それは戦後の『日本目録規則 1952 年版』として標準目録規則に結実した。

戦後 1946 年、青年図書館員連盟 (敗戦前に解散) の後継団体として結成された日本図書館研究会は機関誌『図書館界』を刊行した。同誌は非基本記入方式の主舞台となった。これが第二期の主記入論争である。同方式は、1977 年以降の『日本目録規則』に導入された。

当論者は、青年図書館員連盟は、第一期の主記入論争で著者基本記入論によ

って勝利の立役者となったが、その後継団体、日本図書館研究会の中心メンバーは第二期の論争で、上記・青年図書館員連盟の支持した著者基本記入論を強く批判した、このことに焦点をおく。

【発表2】

○ 発表者

藤野 寛之（愛知淑徳大学大学院）

○ 発表題名

歴史研究の場としてのアメリカ大統領図書館について

○ 発表要旨

1955年の「大統領図書館法」、およびその後の議会での取り組みをもとに、現在12館の大統領図書館（博物館）が存在する。その設立背景、法律の内容、各図書館の概要、LCやNARAとの関係、教育施設としての役割などについて紹介する。また、文書館と図書館、私文書と歴史（公）文書の問題を取りあげてみたい。この型の図書館がアメリカの図書館史のなかで、どのような役割を演じているのかを探る試みである

会場案内

## 研究会のウェブサイト（ホームページ）開設について

『ニューズレター』前号に速報のように、研究会のウェブサイト（ホームページ）が開設されました。本研究会のウェブサイトの URL は次のとおりです。ぜひとも本研究会のウェブサイトにお立ち寄りください。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalih/index.html>

また、ウェブサイトの内容などについて、ご意見などをお寄せください。皆様のご意見などを参考に、ウェブサイトの充実をはかっていきます。なお、セキュリティ対策上、直接の書き込みは受けつけていません。

## 『ニューズレター』バックナンバーのウェブ掲載について

本研究会は、2007年に創立25周年を迎えますが、同年には本誌『ニューズレター』も創刊100号に達する見込みです。

研究会の会誌である本誌には、図書館文化史研究上貴重な記事が少なからず掲載されています。そこで創立25周年・創刊100号を記念する意味を含めて、既刊の本誌を順次PDFファイル化し、研究会のウェブサイトに掲載することを計画しました。

他方、本誌は多くの皆様から寄せられた記事によって構成されており、ウェブ掲載に際しては、皆様の許諾をいただく必要があります。

つきましては、本誌掲載の皆様のご著作で、ウェブ化を認めないものがあれば、事務局までご連絡ください。特にお申し出がなければ、許諾いただいたものとみなし、上記のように順次PDFファイル化して、研究会のウェブサイトに掲載していきたいと思っております。

なお、個人情報の保護に留意して、「会員動向」欄等に掲載した会員の皆様の自宅住所、電話番号、メールアドレスは削除し、掲載しないようにします。また、電子版の「会員名簿」も作成しない方針であることを申し添えます。

### 『図書館文化史研究』第23号原稿募集のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第23号の原稿を募集中です。

原稿の締切は2005年12月末日です。ふるってご投稿ください。

なお、この件に関するお問い合わせ、ならびに原稿の送付先は別記事務局までお願いします。

## 2005 年度研究集会シンポジウム報告要旨

**【報告 1】 図書館用品の標準化—図書館協力への展望のもとで**  
**竹内 愨**（日本図書館協会前理事長）

図書館用品というとらえにくいものを考えるために、図書館の活動に、持ち寄り、まとめ、分け合いという三つの局面を設定。その展開を日本の明治以前と欧米の図書館協会の成立においてみると、協力への動きと、それを時間的、労力的に支える図書館用品が見えてくる。その普及においては、M. Dewey のライブラリー・ビューローの用品生産と、図書館員養成における標準化指向の教育、日本では間宮不二雄を始めとする先覚者の努力と、各図書館での標準化の採用、図書館協力の発展、IT 化による機器の進歩、図書館の本質を踏まえ、図書館サービスの進展を図り、かつこの仕事に喜びを見出す図書館員と関係者の努力が図書館用品を発展させてきた。今後もこの基本は同様と考えている。

**【報告 2】 歴史的図書館用品の現状**  
**木原 祐輔**（キハラ株式会社代表取締役）

昨年よりキハラ株式会社では、日本図書館協会からの委託事業として「歴史的図書館用品の調査・収集」を始めました。現在までに調査・収集いたしました用品を、画像データによりご紹介させていただき、「歴史的図書館用品とは」、[データベース作成上の問題点]、[収集品の公開方法]、[収集品の保管方法]などについて、体験談をお話いたしました。

**【報告 3】 明治期、図書館用品の欧米からの受け入れと工夫の様子、その一端**  
**小川 徹**（日本図書館文化史研究会前代表）

明治期、欧米の図書館についての知識とともに様々の図書館用品についても同様でした。例えば、閲覧机、椅子。しかも絵や写真で見ると、狭いところにぎっしり詰め込まれての読書・書写という経験。

書架。長い間本は本箱に横にして積んでしまっていました。そこに洋装本とともに、本は立てて書架に並べるという新しい経験。

新たな用品とともに明治期の図書館がスタートした頃の様子的一端を報告しました。

## 2005 年度研究集会個人発表要旨

### 【発表 1】

中山 愛理（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程）

○ 発表題名

メアリー・レミスト・ティッコム—ブックモバイル（移動図書館）のパイオニア

○ 発表要旨

2005 年でちょうど 100 周年を迎えた、ブックモバイルの原初形態である“馬車図書館”。そのブックモバイルの先覚者となった、メアリー・レミスト・ティッコム（Mary Lemist Titcomb）の人物像に迫るため、彼女の取り組みを 3 つの時期に区分けをし、それぞれの図書館での実践形態をまとめた。今回の発表では、“馬車図書館”を妙案した地でもあるワシントン・カウンティ・フリー・ライブラリー時代を中心に、彼女の取り組みを考察した。その中で、彼女に宛てられた書簡やワシントン・カウンティ・フリー・ライブラリーに所蔵されているアンニュアルレポート、当時の新聞記事などから、彼女がアメリカ図書館界に与えた影響を検討し、評価を試みた。

### 【発表 2】

米井 勝一郎（愛知県図書館）

○ 発表題名

華中鉄道図書館：森清（もり・きよし）の上海時代

○ 発表要旨

華中鉄道とは、1939 年、日中両軍の戦闘により荒廃した華中地域の鉄道運輸体系の復興を目的に設立された日中合弁の会社である。NDC の考案者として知られる森清（もり・きよし）は、この華中鉄道でその図書館業務を約 6 年と 4 ヶ月の長きにわたって担当した。遺された僅かな資料からは彼が積極的に主体性をもってその図書館業務に携わっていたことが窺われる。今回の報告では、戦時下、日本の制圧下にあった中国で、彼が主体的に行った仕事の意味を問うてみた。

### 【発表 3】

木本 幸子（大妻女子大学家政学部）

○ 発表題名

情報検索のための道具・機器の記録化

○ 発表要旨

現在のコンピュータ検索の考え方や手法は、カード形式の検索から始まる。

道具や機器の進歩とともに検索の手法は進化してきた。コンピュータ検索が始まる以前の情報「検索」のための道具、コンピュータ検索の初期段階で使用された機器は、すでに使用されなくなり、それらの多くは実物を見ることがなくなった。これらの存在を組織的に調査し、収集し、ビジュアルな形で記録に留めておく必要性を強く感じ、情報検索の歴史的流れを道具・機器の変化との関連でまとめた。教育用の映像資料として「オープニング」「検索のはじまり」「カードの発展」[コンピュータの登場]「記憶媒体の変遷」「エンディング」の順序で、検索の歴史を概観できるように解説し、また道具・機器がどのように使用されたかが解るように、実際に操作した形で、映像化した。

情報検索のための道具・機器の記録化の目的、道具・機器の収集方法、映像化の手順等を紹介した。

【発表4】

高倉 一紀（皇學館大學文学部）

○ 発表題名

幕末公開文庫の蔵書構築—伊勢“射和文庫”の事例から

○ 発表要旨

伊勢射和の富商竹川竹斎（1809-82）の営む射和文庫は、慶応2年（1866）当時、1万4000巻を越える書籍の集積をみた。富裕な商人による私文庫が叢生した近世後期の伊勢国においても、その蔵書量は他を凌駕するものといえる。

蔵書の多くは竹斎自らの蒐集にかかる1万巻とはいえ、西村広美・竹口信義・国分信親等、親族による合わせて3000巻の納本のあったことも注目される。今回の発表では、昨年3月竹口家資料の調査過程で見出した「諸うり立帳：慶應元乙丑十月」から、竹口信義の慶應元年射和文庫納本リスト（全267タイトル864冊）を紹介。さらに、その内容を分析して、これまで量的に極めて貧弱と見られて来た射和文庫の仏書が、実際には信義納本分のみでも47タイトル89冊に及ぶこと。当該納本リストに見える81タイトル239冊が石門心学関係書であることを明らかにして、射和文庫の蔵書構築における信義納本の意義を考察した。

『ニューズレター』原稿募集のお知らせ

ニューズレターの原稿を常時受け付けています。

次号（94号）掲載を希望される場合、2005年12月末日までに別記事務局まで原稿をご送付ください。

今後ニューズレターで、図書館文化史研究に関わる文献・情報を速報していきたいと思えます。会員・非会員の問わず、関連業績を事務局までご連絡ください。皆様のご協力をお願いします。

## 運営委員会通信

### ■■ 次回運営委員会について ■■

次回運営委員会を、下記のように開催します。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。

当日ご都合の悪い方は、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

#### 記

- 日 時 11月26日(土) 15時30分～16時30分
- 場 所 桃山学院大学昭和町学舎エクステンション・センター分室
- 内 容
  1. 2004年度研究集会・総会決算について
  2. 2005年度第3回研究例会について
  3. 25周年記念事業について
  4. 2006年度研究集会について
  5. 日本図書館文化史研究会規約の改正について

ほか

### ■■ 前回運営委員会の報告 ■■

実施日：2005年9月18日

場所：日本図書館協会

以下のような事項について、協議しました。

- 内 容
  1. 2005年度研究集会について
  2. 2006年度研究集会について
  3. 第3回研究例会について
  4. 『ニューズレター』第94号について
  5. 機関誌『図書館文化史研究』第23号について
  6. 25周年記念事業『図書館人物伝(仮称)』について
  7. 研究会ウェブサイトについて
  8. 日本図書館文化史研究会規約の改正について
  9. 会員動向
  10. 次回運営委員会について

## 事務局だより

### ■■ 会費納入のお願い ■■

2004・2005 年度会費をまだ納入されていない方には、封筒に「会費振替用紙在中」の朱印を捺し、振替用紙と会費納入のお願いの文書を同封しました。至急ご送金ください。年会費は 3,000 円です。

### ■■ 会員動向 ■■

新入会

住所変更

### 研究例会発表募集のお知らせ

本研究会では、毎年度 3 回（6 月頃、12 月頃、3 月頃）に研究例会を実施しています。研究例会での発表を希望される方は、次の各項を明記して、別記の事務局までお申し込みください。

- 氏名（所属）
- 連絡先（住所、電話、メールアドレス等）
- 発表題目
- 発表要旨（200 字程度）
- 発表時間（通常質疑応答を含め 1 件 1 時間程度）
- 発表希望場所（例：関東、関西）